創刊の辞

福谷　茂

本年より西洋近世哲学史研究室紀要『PROLEGOMENA』を創刊します。

当研究室にはすでに『近世哲学研究』があり、本誌とほぼ同時に第 14 号が刊行されます。『近世哲学研究』には当研究室ご出身の方や当研究室と所縁の深い方々が論文をお寄せくださり、質の高い専門的研究成果やライフワークの一端をご発表くださる場所として学界的評価をいただいてまいりました。印刷形態の『近世哲学研究』を刊行するために歴代の専修主任や大学院生、OD がどれだけの労力を払ってきたかを考えるとき、おのずから頭がさがるのをおぼえます。

『PROLEGOMENA』はオンライン雑誌という形態を採用して編集作業および刊行にかかるコストをできるだけ軽減しつつ現れることになりました。画面上とはいえ一冊の雑誌を読むのに限りなく近い形になっております。

また本誌の狙いは、修士論文を書き終えたあと大学院博士後期課程に進学した者がまず最初に自分の研究成果を公にする場所となることです。その意味で掲載論文は修士論文に準ずるものだと読まれることを投稿者は覚悟していることでしょう。と同時に修士課程に在籍して修士論文を準備中の者にも門戸を開き、早くから書くこと、世に問うことに意欲燃やす者にも、サーベイ論文を投稿する機会を提供することも重要な目的です。創刊号に修士課程在籍者の論文が寄せられたことを喜びたいと思います。

哲学史研究の論文は書けるようになるまでに相当の年季が必要です。しかし書くことの実習は早くから始めておいたほうがいいことはいうまでもありません。イギリスの哲学者の自伝を読むと、学部時代からチュートリアルで論文を提出しきびしい批判を受けるシステムで教育されたかれらは、おおむねそのことで鍛えられた自分に自信を持ち、またそのシステムに感謝しているようです。残念ながらわが国では博士後期課程に籍を置く者でも、学会発表で他人に通ずる言葉を語ることはなかなか右から左へとはできていないようです。勉強することと、発表すること・書くこととのシームレスなつながりが今後ますます望まれているのであれば、早い目の機会を作ることが求められていると思います。

さらに『PROLEGOMENA』は欧文での投稿を歓迎しています。発信力の向上というこの点もまたいままでその必要が叫ばれながらも実現していませんでした。書くことの練習が同時に欧文で書くことの練習にもなれば一石二鳥です。創刊号には 2 編の欧文論文が寄せられましたが、まことに幸先よいことと感じております。

申し上げるまでもないことですが、“Prolegomena”を著作のタイトルに使った哲学者は、そのあとに“zu einer jeden künftigen Metaphysik, die als Wissenschaft wird auftreten können”と付け加えております。この抱負に満ちた、しかも慎重きわまる言い回しを本誌タイトルの背後にも潜めておきたいと思います。

以上のように、本誌はかなりの意欲を持って創刊されました。とはいえ大事なのは創業とともに

守成です。一石二鳥のつもりが二兎を追うもの一兎をも得ずとならぬよう、皆様方のご指導とご鞭撻を衷心からお願い申し上げて創刊の辞といたします。

2010 年 12 月